

わたしの正論



入選 赤松 順太

入管法改正で 就労を拡大

二十一世紀に向かうわが国にとって、不法滞在者の外国人犯罪は、最も対処の困難な問題の一つとしてあり続けるだろう。ただ基本的には、不法滞在者の「犯罪」について考える以前に「外国人をどう受け入れるか」についての社会的合意がなされていなくて、より問題であることこそ指摘しておきたい。

まず不法滞在者(合法滞在であつても不法就労を含む)が、どんな推移をたどるだろうか。就労目的で来日する外国人の数が減らない限り(現在はバブル期に比べて大幅に減っているのだが)、不法滞在者の数も基本的には増え続けるだろう。

外国人(単純労働者)増加の原因は二つある。一つは日本社会に不可欠な少子化が進行するとともに、若者の単純労働忌避の傾向は依然として強く見られること。その

あかつ・じゅんた 昭和6年6月愛媛県宇和島市生まれ。69歳。京都大学法学部卒。三井物産を昭和62年に退社。趣味は漢詩創作。トルコ研究・紹介。2回目の入選。鎌倉市在住。

人を認めて罪を裁かずの弊害

すでに、そして今後はさらに。に単純労働への外国人の寄与が、現実経済の問題として求められている以上、出入国管理法の改正によって就労資格の付与をもっと広範に認めるべきである。ただし「広範」には「きめ細かく」の裏付けが必要なことはいうまでもない。

以上は実態と法令の乖離を是正する形での提案だが、他

方犯罪に対する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

中国人の密航者を摘発する東京入管(池袋)

「不法」が犯罪に對する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

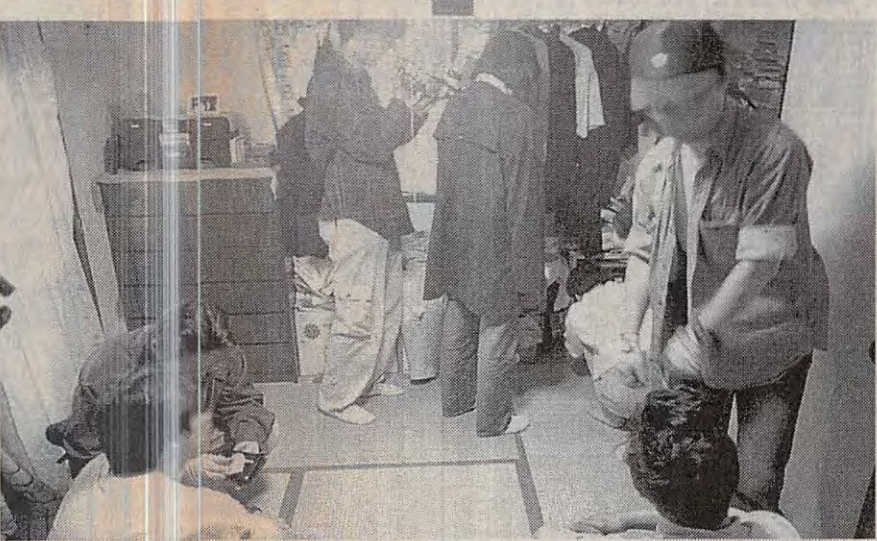
「不法」が犯罪に對する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

就労の規制が 犯罪の温床だ

外国人による犯罪が増加している。その六割もが不法滞在者と言ふことである。何らかの対策を打つ必要に迫られている。

短期的な対策としては、不法滞在者に対して罰則や取り締まりを強化することも必要であるが、それだけでは根本的な解決にはならない。言うのが私の考えである。何故なら、外国人を雇い入れたという二一スが日本国内に内在しているからである。日本の賃金水準は国際的に見ると非常に高いし、最近の若者が嫌う三K職場など、安い賃金や悪環境でも働いてくれる外国人労働者を雇う必要も強い。

一方、日本周辺や中東の国々の人達にとっては、夢のような高賃金が得られる日本での就労は魅力的である。このように、日本自体の二一スと近隣諸国の人達の二一スが合致しているのであるから、犯罪の温床となっている。以上の分析でも解るように、外国人労働者の流入圧力は非常に高く、日本自体において外国人労働者の受け入れが拡大される結果必然的に不法入国が多くなり、犯罪の温床となっている。



中国人の密航者を摘発する東京入管(池袋)

第309回 6月のテーマ 不法滞在者の犯罪を考える

わが国に増加しつつある外国人不法滞在者の問題。先般の石原慎太郎・東京都知事の発言もあって、最近話題にはなっているが、この問題にいかに対処すべきかについては、まだ議論が十分だとは言えない。それだけに、今回のオピニオンプラザの意見が期待された。

入選の赤松順太氏は、国家意識と法曹の在り方にまで論点を広げた政策論として優れており、鎌田正誠氏の意見は外国人労働力受け入れの立場からの政策提言として傾聴に値する。

論文を審査して 中嶋 嶺雄



佳作の中島嶺雄曰く、新妻規矩雄の三氏も審査員全員一致して推した論文であった。選外となったが中国語司法通訳者の渡邊尚氏、被書体験を綴った今井裕子さんの文章もなかなかの形で紹介したいものである。総じて今回のオピニオンは、国家意識を確立すべきことを説くものと、外国人

少なかった問題をえぐる論文

受け入れを推進する立場からの問題提起に二分された。多くの貴重な意見が寄せられたとはいえず、不法滞在者が増加する根本原因を地域研究、外国研究の立場から扱った文章や日本の警備・予防体制の欠陥を具体的に論じた意見、さらには日本の外交政策の問題点として全面的に論じた作品がほとんどなかったのは、残念であった。この点では、銭山山善・高橋文代氏「ある中国人密航者の犯罪」(草思社、一九九九年)を是非参照されたいと思つ(東京外国語大学学長)

オピニオンプラザ



入選 鎌田 正誠

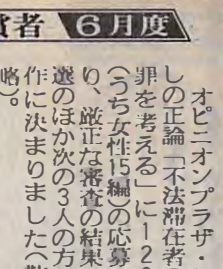
14年3月東京都生まれ。61歳。東京大学大学院修士1コース機械工学専攻。現在技術コンサルタント。趣味は社交ダンス、読書ほか。2回目の入選。別府市在住。

二国間条約で労働者流入管理を

は、即ち外国人労働者を希望する国々との間に、二国間条約を結び、国同士で協定により管理された形で受け入れることを前提にした。必要労働者を受け入れるシ

「競争原理」で 最近の労働市場のキーワードはアウトソーシングである。この動きの国際版が私の提案である。隣国というアウ

「競争原理」で 最近の労働市場のキーワードはアウトソーシングである。この動きの国際版が私の提案である。隣国というアウ



入選 中島 嶺雄

41歳。東京大学法学部卒。三井物産を昭和62年に退社。趣味は漢詩創作。トルコ研究・紹介。2回目の入選。鎌倉市在住。

「不法」が犯罪に對する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

「不法」が犯罪に對する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

「不法」が犯罪に對する刑事関係法令で、それが身分的不安を招き、その不安が彼らをして犯罪に走らせている大きな要因だからである。

月間賞人賞者 6月度

オピニオンプラザ「わたしの正論」不法滞在者の犯罪を考える(1)22編(うち女性15編)の応募があり、厳正な審査の結果、入選のほかに3人の方が佳作に決まりました(敬称略)。

▲佳作 ▲中島 嶺雄 41歳 (会社員 奈良県) ▲日向 規矩雄 75歳 (営業マン サルタン 川崎市) ▲新妻 規矩雄 44歳 (会社員 七尾市) (会社員 仙石市)

第311回 論文募集

《8月のテーマ》 「二世議員は是か非か」

今回の衆議院総選挙で二世議員(父母、祖父や義父が国会議員)は当選者の約四人に一人の割合を占めました。議員の世襲・二世議員は政治改革の弊害など批判されていますが、先代の知名度と選挙地盤を受け継ぎ、有力な選出士として地城を築くという世襲は、議員の世襲とともにも次世代を担う有能な新人議員の登壇を狭めるともいわれます。国政における二世議員出馬の是非について皆さんの意見を

原稿枚数 4000字 原稿用紙(20字×20行)5枚(タテ書き)ワープロの場合 はケイ線の無い白い紙に印字 (本名)性別、年齢、職業、郵便番号、電話番号(自宅と勤務先)、論文募集を何で知ったかを明記。応募条件 日本語で書いた未発表の作品で

1人1編。原稿は返さない。応募作品の版権は産経新聞社に帰属する。賞(月間賞) 入選2編(賞金各10万円)、編(賞金各10万円)、編(賞金各10万円)。

雑誌「正論」9月号の主な内容は次の通り。▽衝撃報告・中国で売られる北朝鮮女性たちの証言録(編集部)▽中

雑誌「正論」9月号の主な内容は次の通り。▽衝撃報告・中国で売られる北朝鮮女性たちの証言録(編集部)▽中

雑誌「正論」9月号の主な内容は次の通り。▽衝撃報告・中国で売られる北朝鮮女性たちの証言録(編集部)▽中